

災害に強い鉄道 技術者ら考える

仙台でフォーラム

鉄道技術者らでつくる日本鉄道車両機械技術協会東北支部(仙台市)は11日、災害に強い安全な鉄道を考えるフォーラム「東日本大震災・検証と復興への道」を、仙台市宮城野区の仙台ガーデンパレスで開いた。

会員の機械メーカー社員やJR関係者ら約130人が参加した。東北運輸局の岸谷克己鉄道部長が東日本大震災からの鉄道の復旧状況を説明。東

北大災害科学国際研究所の今村文彦副所長は地震と津波のメカニズムを解説した。



震災を踏まえた安全な鉄道づくりに向け意見を出し合ったフォーラム

鉄道設備の被災報告や復興に向けた提案発表もあった。鉄道総合技術研究所(東京)の熊谷則道専務理事は、津波で橋桁しか残らなかった例があったことから、橋の両端と岸側の盛り土を一体化させ強度を高める最新工法を紹介した。

協会の矢口弘志東北支部長は「首都直下や南海・東南海の大地震が予測され、防災対策は国家的課題だ。東日本大震災を教訓とした安全な鉄道づくりが、技術者に求められている」と語った。